

## 私と土木

大豊建設株式会社 土木本部  
土木技術部 技術設計課

● 長田 裕美  
おさだ ゆみ

### 私のルーツ

私は、東京都杉並区で生まれ育ちました。緑が多い町ではありませんが、ドライブ好きな両親が海や山など色々なところに連れて行ってくれた影響もあり、いつの間にか自然が好きな子どもになっていました。ゼネコン勤務だった父は、ドライブ中

にもよくトンネルの話などをしてくれました。当時は、父の仕事内容を理解してはいませんでした。今思えば父の土木愛をすり込まれていたのかもしれない。

「自然」や「環境」というワードに興味を持ち、大学は都市環境学科に進みました。土木構造物にはあまり興味を持っていませんでしたが、入学してすぐの授業でとても記憶に残っているものがあります。水上



中央大橋にて

バスに乗って東京都の隅田川に架かる橋を見学するという授業だったのですが、様々な形式の橋がいくつもあり、下をくぐる度に夢中で写真を撮っていました。スケールの大きい橋の格好良さや心惹かれました。その時から少しずつ土木構造物に興味を持つようになりました。現在の勤務先のすぐそばに隅田川があり、お気に入りの中央大橋が架かっています。職場で取り組んでいる清掃活動の際に中央大橋を見るのが密かな楽しみになっています。

就職活動は悩んだ末にゼネコンへ。父と土木に関する話をする機会も増えました。

### ゼネコンでの業務について

入社してから四年目を迎える現在まで、技術設計課に所属しています。入社したら現場に出るだろうと思っていたので、配属先を知った時は大変驚きました。右も左も分からぬ中、上司や先輩に教わりながら、気づいたら三年経っていたという感覚です。昨年度からは同じ部に後輩ができ、教えることの難しさや自分の勉強不足を痛感しています。

業務内容としては、コンクリート構造物の温度応力解析や歩道橋、仮設構造物の設計などを行っています。入社してからデスクワークがほとんどで、現場を見に行くこともなかなか無い中、入社一年目の十月に弊社の女性技術者による安全パトロールを企画していただきました。東北の現場を三日間で一〇ヶ所ほど回りました。その一〇現場の内一つに自分が仕事で携わった橋台がありました。携わったといっても、その頃の仕事は先輩の業務の手伝いがほとんどで、先輩が作った解析モデルをソフトで回して結果を抽出する程度のものでした。ですが、私にとってはとても貴重な経験となりました。いつも見ているのは机の上で開いた図面、パソコンの中の解析モデル。寸法は



女性技術者安全パトロールにて（写真右から2番目）

分かっていても実際の構造物のスケールがなかなかイメージできずにいました。案内してくださった現場の方が、「長田さんが解析してくれた橋台、ひびも入らずにできましたよ」と教えてくださいました。自分の仕事の成果が見えづらい設計課の業務がこのような形で出てくるのかと、とても嬉しかったのを覚えています。携わった仕事が形になって残っていく、建設業の魅力を初めて感じた瞬間でした。

現在は、業務を一人でやることも増えたのですが、やはり感じるのは現場経験不足です。現場の所長さんと電話でやりとりしていても、まだまだ分からないことも多く、たくさんの方を教えていただきます。あっという間に四年目を迎え、まだまだ力不足であることを感じる場面も多いですが、設計のことも現場のことも分かる技術者を目指していききたいと思います。

## 建設業界について思うこと

働いていて日々感じるのは、建設業界の人手不足です。建設業界で働く人の平均年齢は年々上がっており、今後さらに人手不足が深刻になることが懸念されています。これから先、この問題を改善していく上で必要なのは、まずたくさんの人に建設業の仕事を知ってもらうことだと思います。

今回執筆依頼を頂いた時に、女性リレートークのバックナンバーを読ませていただきました。その中で印象に残ったのが二九一号で田邊さんが仰っていた、現場見学会の時に中学生にし

たというお話です。「自動車にはメーカーのエンブレムがついているけど、土木のお仕事で作った道路にも水道にも作った人の名前はついていません。名前がついてないから、みんなが気付いていないだけで、土木のお仕事はみんなの身近な生活の中にあるよ」。それだけの人が街中の「土木」に目を向けているでしょうか。私自身、建設会社に勤め始めてから街中にある道路や橋を「土木」として意識するようになりました。それまではただの日常風景で、誰がどのように作っているのかなど、考えたことはありませんでした。

ニュースではどうしても建設業の良くないイメージの方が先行してしまいます。実際に土木に関わっている私たちが、どんな仕事をしているのか、土木の魅力とは何か、少しずつでも発信していくことが将来の建設業の発展にも繋がるのではないのでしょうか。働き方改革も進んでいる中、年々就業体制は見直されてきています。近い将来、建設業が「なりたい職業」に選ばれる日が来ることを期待しています。

さて、今回は内外エンジニアリング株式会社技術一部の苗村志岐子さんへバトンを引き継ぎたいと思います。

長田さんからのバトン、しっかり受け取りました。次号では、二人の子育てと仕事の様子についてご紹介したいと思います。どうぞお楽しみに。

内外エンジニアリング株式会社  
技術一部 プロジェクトリーダー

苗村志岐子

